■中村直三　　農事改良家。明治三老農の一人。稲中心に独自の品種改良し普及活動，諸藩諸県から招聘された。
なかむらなおぞう
群書類従完結1819＝　　大和国山辺郡永原村で，村民から慕われた奈良奉行所の夜警番人善五郎の長男に生まれる。

幼時より向学心に富み，

村の治安維持を請け負い，そのために農事改良も手がける祖父・父に学びながら育ち，

ｼｰﾎﾞﾙﾄ事件・1828＝ 9歳：
隣村の寺子屋に入ると頭角を現し，

大塩平八郎乱1837＝18歳：
_長じて父の夜警番人小頭部長の職をつぐと，

_奈良奉行所の番人小頭を務めながら，各部落を歩いて耕地調査に努め，四書五経や石門心学を独習。

阿部正弘首座1845＝26歳：
孝明天皇・・1846＝27歳：
_家職を弟に譲って，父の郷里平群郡竜田村に移住していたが，

_永原村が高取藩預かりとなって，貢租の負担が過重でになったところに，
ペリー来航・1853＝34歳：

安政大地震・1855＝36歳：*父が死去したため，帰村すると直ぐ，試作した"善五郎穂"と名づけた稲の新品種を村中に配布し，
松下村塾・・1856＝37歳：_減租を求める農民騒擾が発生すると，村役人らと協力し，農事改良によって重租の苦しみから逃れうることを説いて，強訴の防止に尽力，
五ヶ国条約・1858＝39歳：_農事改良の一助にと，この頃から，大坂や近江の石門心学の学者を招いて，大和心学の復興を図り，
安政の大獄・1859＝40歳：_騒動が一段落すると，
桜田門外変・1860＝41歳：
_番人制度の改革を図るとともに，尊攘派志士と交わり，
_また農業書「勧農微志」を著わし，稲種の交換改良や農法改良を企てる。
8月18日政変 1863＝44歳：*はじめて稲種伊勢錦を試作すると収穫が極めて多く，遠近より播種を求めるものが絶えず，
禁門の変・・1864＝45歳：
薩摩藩士密航1865＝46歳：_「伊勢錦」を著す。

明治維新・・1868＝49歳：_伏見戦争で兵乱に乗じた賊徒を取り締まるとともに，官軍の食糧確保に奔走，維新後，
_近隣11ヶ村の耕地調査を行って，稲種交換農事改良法を実施したのをはじめ，農事指導に乗り出し，
初の日刊新聞1870＝51歳：*郡山から招かれて講演に出かけ，
廃藩置県・・1871＝52歳：_再び郡山へ行く一方，評判を聞いて熊本藩から次々と農業研究家が来訪，
学問のすすめ1872＝53歳：_奈良県令から委嘱されて，蚕業の振興を指導，
明治6年政変 1873＝54歳：
佐賀の乱・・1874＝55歳：県令から穴師神社祠官の推薦を受けて就任，
初の民間工場1875＝56歳：_奈良県庶務課雇となり，稲の試作・改良のほか，内務省配布のアップランド棉の種子の栽培などに従ううち，指導者・老農の名が全国的になる。
西南戦争・・1877＝58歳：_秋田県に招かれ，同県腐米改良掛主任となり，さらに勧業掛に転じて稲品種の改良につとめ，石川理紀之助らを指導。第一回内国勧業博覧会へ稲種321種とその収量実験表を出品して受賞。一旦故郷に戻るが，
琉球処分・・1879＝60歳：_宮城県に招かれて赴任したほか，
_各地の稲作指導や農談会の育成につとめ，天下の老農とうたわれ，
明治14年政変1881＝62歳：_「種子精選改良法」を著し，第2回内国勧業博覧会に稲種700余種・綿種20余種を出品，
新体詩抄・・1882＝63歳：*{米麦大豆煙草菜種共進会}で天皇から表彰を受けるという光栄に浴した直後に，コレラに罹り，没した。
著書はほかに「勧農微志」「大和穂」「畑稲」などがある。

日本人物誌叢書「日本農学者評伝」，「人づくり風土記(奈良)」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，